

平成 23 年 9 月 9 日

浜田市議会議長 牛尾 博美 様

議会広報広聴調査特別委員会視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 期 間 平成 23 年 8 月 18 日（木）～8 月 19 日（金）

2. 視 察 先 京都府京丹後市

3. 参 加 者 議会広報広聴調査特別委員会委員

佐々木 豊治 委員長 ・ 田畑 敬二 副委員長

笹田 卓 委員 ・ 布施 賢司 委員 ・ 岡本 正友 委員

芦谷 英夫 委員 ・ 三浦 美穂 委員 ・ 川神 裕司 委員（副議長）

牛尾 昭 委員 ・ 美浦 美樹 委員

4. 調査項目

(1) 議会報告会の取り組みについて

①議会報告会に関する事項等について（議長・事務局長）

②議会報告会の傍聴（現地：大宮会場 公民館）



5. 各視察先の調査内容

○市の概要

平成 16 年 4 月、周辺 6 町が合併し京丹後市が発足。

人口は約 6 万 1,000 人で、旧峰山町役場に市役所が置かれた。

京都府の最北部に位置し、市域を「北近畿タンゴ鉄道宮津線」が走っているが、市名の京丹後駅はない。各旧町ごとに歴史や特色があるが、旧網野町の丹後ちりめんなどが名産として有名である。

①議会報告会の事項等について（議長、事務局より） 8月18日 16:30～17:30
（市役所本庁にて、6市議会合同で取り組みの説明を受ける）

初めに池田恵一議長から、議会報告会開催要領などをもとに、報告会の取り組み内容などの説明を受ける。

約2年前から取り組まれ、年4回、毎議会ごとに報告会を開催されている。

概ね印象に残ったお話は次のとおり。



- ・市民に、審議の結果だけでなく経過を知っていただくために行う。説明により、納得まではいかないものの、理解はしてもらえるようになった。
- ・市長から新たな政策提案がある場合は、6項目にわたり説明を受ける。その際、必ず文書で提出させる。（これをもって、報告会で説明）
- ・議会での審議においては「市民への説明がつくか」が、常に各議員の頭のなかにあるようになった。

- ・報告会では市政全般にわたり答えられるようにし、議会・議員の見解も述べるようにしている。（それは行政側の質問だから、答えられないとかわからないでは、市民からの不信につながる）また、当該地域の問題にも常にアンテナを張り、答えられるようにしている。
- ・個人や政党の報告会にすりかわらないようにしている。
- ・委員会審査では執行部に退席してもらい、委員間の討議を行い、結論を出している。本会議の委員長報告に対し、他の議員から多くの質疑がだされ、審議不十分の場合は動議が出され差し戻しされる。討論も活発にされている。（要は市民に説明がつくかどうか）
- ・5年以上の計画案のような提案は否決している。



②議会報告会の傍聴（大宮会場 公民館にて） 8月18日 19:30～21:30

当日は、昼の部に続き夜開催された、大宮町での議会報告会を傍聴させてもらった。進行役と説明員が3名、記録員2名、受付3名の8名体制での運営であった。





内容は「6月議会の報告」として、作成された資料と8月に発行された市議会便りで概略の説明があり、その後、今回のテーマである市民との意見交換「あなたは議会に何を望みますか？」の質疑応答があった。

概ね、市政に関する質問が多く「都市開発の問題」「工業団地の問題」「ごみの分別の問題」などがあつた。

各委員の主な感想としては以下のとおり。

- ・報告会を開くことが目標になっているので、説明をもう少しした方が良い。
- ・テーマが大きかったためにもう少ししぼった方が良かった。
- ・資料等をもっとわかりやすくし、議員も市民に参加を呼び掛けるようにすべきである。自治意識向上のための報告会にする必要がある。
- ・時間があれば、別に用意したテーマを呼びかけ、意見を求めたらどうか。
- ・配置や雰囲気は良かった。



【まとめ】

京丹後市議会は、日本経済新聞社が全国の市区議会を対象に地方議会が情報公開や運営方法をどのくらい改善しているかを見るためのアンケート調査を行った中で、市長らの反問権の制度化、また主要議案について議員同士が公開で討論する仕組みの導入や議決内容を住民に説明、意見交換する報告会も開いていることなどが評価され、議会の透明性が全国で第1位の市議会である。



現在も全国から多くの議会が視察に来ている現状から、大いに取り入れたい取り組みや手法もあつたが、京丹後市議会が独自に実施したアンケート調査結果を分析してみると、もう少し創意工夫を施す必要や改善すべき点も少なからずあるように感じた。

浜田市議会としても、今後開催を予定している議会報告会に一人でも多くの市民の皆様に来ていただけるために我々議会は何をすべきか、という視点を念頭に置きながら、より市民の皆様身近な議会に生まれ変われるよう努めていきたい。

報告者 議会広報広聴調査特別委員会
委員長 佐々木 豊治